



<本年度会長方針>

あらためてロータリーを考えよう No.1129

承認 1985年2月12日 例会日 木曜日 12:30 例会場 名古屋東急ホテル  
会長 川畑 博敬 事務局 名古屋市中区栄4丁目6番5号 丸越ビル6F  
幹事 田崎雅三 電話 (052)251-0181 FAX (052)251-0337 〒460-0008  
URL http://www.nagoya-osu.org E-mail office@nagoya-osu.org

こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

第1328回例会

会員増強おめでとう

拡大月間

平成23年

8月18日(木)

於 名古屋東急ホテル

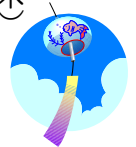
出席計算数 会員 60名

出席計算数

50名中37名出席

出席率 74.00%

前々回出席率 89.80%



「ロータリーシンク」  
「それでこそロータリー」

指揮者 前田 隆久  
ピアノ伴奏 富樫 玲子

「ピクチャー」

志摩RC 坂東 浩三

「ニコボックス」

初めてお伺いしました。宜しくお願いします。

志摩RC 坂東 浩三

お書きです！

まだまだ夏です。

「芸協らへ」大須寄席よろしく

お願いします。

オオスシカースで歌が覚えられ

てきました。

溶連菌感染症で家族全員ダウンし

ましたがお盆に復活！健康管理に

気をつけます！！

誕生日です！

奥さんの誕生日。カステラ美味し

かった。

妻の誕生日です。

柴岡 正将  
松本 哲朗

妻の誕生日です。 吉田 隆彦

会葬頂き有難うございました。

山口 正孝

会長挨拶

川畑 博敬



アメリカとEUの次は、日本です。

日本の借金(国が平成23年度末で690兆円くらい、地方の借金が200兆円くらい、合計すると890兆円くらい)は、今までの日本では、日本の世帯数で割ると1世帯当たり1,640万円くらいの借金になる計算です。

平成23年度の一一般会計の規模は、約92兆円、その内足りない37兆円を赤字国債発行で補うという予算になっています。赤字国債の発行は、毎年度、法案を成立させないと発行出来ないシステムになっていて、今まで、野党の反対で未成立のままでしたが8月11日衆議院を通過しました。さて、日本のこの借金(国や会社)を減らすのどうしようか？

普通は、まず毎年の借金を減らすために緊縮財政をするか、経済発展をさせて税収を増やすか、はたまた、増徴をするかですが...

このままでは、借金が増えていくばかりで子供や孫に大きな負債を背負わす事になります。日本には、1,450兆円の金融資産があるから破綻なんかしないとよく言われます。確かに国債発行残高の5%くらいが海外の資金なので、破綻はないと思いますが、日本の個人資産と事業主資産の合計金額1,450兆円を借金返済にあてたらどうかと言つ話なので、ロータリアンには辛い話です。

私は、貧乏なので関係ありませんが...

先月の日経「」このままでは日本が立ち行かなくなるから、IMFの監視下で日本を再興しようと言つ住友系の上場企業の社長の意見が載っていました。

政治家や官僚では、日本の再興はとても無理だと言つ気持はよくわかります。

しかしながら、自らの責任を果たす事なく他人に全てを委ねると言つ無責任な人間が上場企業のトップでは、日本は本当に終わっているかもしれません。

日本からどこへ海外に逃げて行く人がいるのも不思議です。



卓話

「会員増強セミナー」出席報告

会員増強委員長 丹下 富博



9月22日に恒例の「友達を呼ぼう例会」を開催いたします。是非とも、会員増強プロジェクトの各チーム1名以上の会員候補者のご推薦をお願いします。

さて、8月はロータリー全体の「会員増強月間」となっています。先月30日に川畑会長、田崎幹事とともに「会員増強セミナー」に出席致しましたので、その内容について報告致します。

まず、地区会員増強委員長・リーダーから挨拶があり、要約しますと①本年度会員数は前年比21名減であった。(例年70〜80名減)②会員増強の状況を毎月の役員理事会で把握して貰いたい③会長・幹事の協力が不可欠である④輩の質という考え方もあるが、米山繁子など原資の確保もロータリー活動として重要である⑤女性会員の所属クラブは当地区においては82クラブ中49クラブである。

ひき続いて「ガバナー補佐より現状発表」「地区増強優秀クラブより発表」が行われた。その中で昨年度単年での増強が17名というクラブもあり、成功事例については、いろいろと参考になり、今後も学びたいと感じました。また、各クラブの増強の共通のキーワードとして、「女性会員」「返会防止」が上がっていたことも印象的でした。

「ここからは、本年2月に横浜で開催された」全国会員増強委員長セミナーの資料について説明いたします。現状としては、ロータリー会員数が14年連続で減少しており、その傾向は今後も続きそうです。好転の気配は伺えず、ロータリー関連の資料や各地区におけるあらゆる会合・セミナーにおいても、改善策・解決策が熱心に検討されていますが、「これで大丈夫」といえる答えは見出されていないという状況であります。

ただ、会員増強は、ロータリーにとって最優先課題であり、従来のクラブ単位の増強方法には、時代背景も加え、限界を感じざるを得ませんので、成果が現れるためには、多少の時間と期間を要するところをえられますが、このシステムが現実機能すれば、大きな飛躍が十分に期待できると思います。

「ポール・ハリスの提唱した精神は、新しい会員が誕生し、彼ら

が先輩ロータリアンから多くを学び、田熟度を増してこそ達成され受け継がれていくものと確信しています」とこのセミナーでは結んでいます。

**広報委員長所見**

7月28日例会の  
酒井 修



本年度広報委員長をおおせつかりました酒井 修でございます。

副委員長には、吉田 明夫さん、ロータリー情報担当副委員長として、委員に松永裕子さん小野定男さんの配属を頂いております。この4人体制を進めてまいります。

1年間よろしくお願ひ致します。私、以前に一般広報委員長をさせて頂いたことがありましたので、簡単に考えておりましたが、CLPによりプリンテンが加わり、又、本年度からはロータリー情報も当委員会の担当で成りました。当時と比べますと3つの委員会を1委員会、4人で対応しなければなりませんので、皆様方のご協力なくしてはやっていけないのではと考えております、是非とも皆様方のご協力の程よろしくお願ひ致します。

委員会方針としては、クラブの活性化と会員増強により良い結果をもたらす広報活動を目指してまいります。

**行動計画として**

1. グローバル補助金並事業、新地区補助金事業等の活動を、ZPFM、中部経済新聞社等のメディアを通じて幅広い世代の一般の人々への情報提供してまいります。

本年度は初めてZPFMを通じ若い世代の方に大須ロータリーの活動と魅力を知って頂き、会員増強の一助としたいと思っております。

又、すでに地区広報委員会を通して中部経済新聞社のロータリーの「コラム欄」私とロータリーへの寄稿依頼がまいつております。

尚、昨年度は当クラブより草野さん、丹下さんより寄稿を頂いておりますので、本年度も是非多数の寄稿をお待ちしております。この場をお借りしまして、寄稿要領をご照会させて頂きます。

2. ウィークリー、HPの内容を充実してまいります。

ウィークリーが今週で3週分発刊しております。出来栄はいかがでしょうか。また写真撮影が不慣れで申し訳ございませんが、何か御意見がございましたらお教え

ください、今後の参考にさせて頂きます。又、過去と同じスタイルで作成しておりますが今後レイアウト等見直してまいりたいと思っております。

HPに関しては特に、本年度会長幹事方針の大幅なHPの造り替え等につきましてはどのようなように進めていくのか、今後調整して行きたいと思っております。

3. ロータリーの友、ガバナー月信の紹介と投稿を促してまいります。

紹介につきましては、特出すべき事項があれば照会させて頂きますが、皆様には全量配布させていただきますので是非時間を作っていただきお読みいただきたく思っております。

投稿につきましては本年度は特にグローバル補助金事業、新地区補助金事業等の担当委員会よりの寄稿をお待ちしております。

4. メール、インターネット、パンフの啓発を促してまいります。
- 田崎幹事方針のパンフ教室開催、当委員会との係りを促すのの今後調整してまいります。

**ロータリー情報計画**

1. R1及び地区の情報を通官会員に提供してまいります。
2. 新入会員への適切なアドバイス、

オリエンテーションを行なってまいります。

オリエンテーションにつきましては、お一人目は既に7月4日新入会員林富徳さんのオリエンテーションを、当委員会には会長経験者がお見えになりませんので会長経験者の吉田隆彦さんの同席を得て、おこなわせて頂いております。

またお二人目は、8月3日、上山和彦さんの後任 石田浩さんのオリエンテーションを会長経験者の草野勝彦さんの同席をお願いして、行う予定をいたしております。

最後に成りましたが今後、会員増強担当の会員組織委員会の皆様方のご努力、ということば、会員皆様方のご努力の成果として、一人でも多くの新入会員の方々へのオリエンテーションを行えることを期待しまして、広報委員長所見とさせていただきます。

**9月1日(木)例会の案内  
SPEAK OUT DAY**

広報委員会

- 酒井 修・吉田 明夫  
松永 裕子・小野 定男
- \*本文は、原則 頂いた原稿を転載してまいります。